令和3年度　第2回子ども・子育て会議 会議録

会 議 名	令和３年度　第２回子ども・子育て会議
日　　時	令和３年１０月１９日（火）　午後２時３０分～午後４時４０分
会　　場	村上市役所４階 大会議室
出 席 者	委員：14人（仲委員、冨樫委員、遠藤委員、阿部委員、平野委員、渡部委員、黒子委員、長委員、加藤委員、小池委員、工藤委員、齋藤委員、本間委員、仙田委員） 欠席委員：松田委員 アドバイザー：小池氏、藤瀬氏 事務局：中村こども課長、信田保健医療課長、木村福祉課長、渡辺学校教育課長、大滝生涯学習課長、荒川支所地域振興課 瀬賀課長補佐、朝日支所地域振興課 中嶋課長補佐、山北支所地域振興課 齋藤課長補佐、こども課 小林副参事、石山係長、高橋課長補佐、渡辺係長、大倉主任 事務局Ｇ：株式会社ぎょうせい　Ⓦ長澤、Ⓦ亀山、Ⓦ新井

会議録
１　開会 　定刻に開会 ２　こども課長あいさつ ３　自己紹介 ４　正副委員長の選出 　※委員改選にあたり正副委員長の選出。立候補なし。事務局提案で異議なし。 　※委員長に仲委員、副委員長に冨樫委員を事務局提案。拍手で承認。 ５　正副委員長挨拶 ６　会議の公開及び会議録に関する取扱いについて 　※資料№.１により事務局より説明。質問なし。 ７　村上市子ども・子育て会議について

※資料№.２により事務局より説明。質問なし。

８　議事

※委員１５名中１４名の出席により審議会成立を報告

※以下、委員長による進行

（1）子どもの生活に関する実態調査等について

資料No. ３－１、３－２、３－３により事務局から説明

委 員 長：アドバイザーから助言等あれば

アドバイザー：実際に子どもがどのような環境で生活しているかを判定にも使うというところ、体験や持っているもの、なども合わせて分析できるのは大きな意義がある。親子で紐づけすることで家庭の姿がリアルに見えると思う。

他の団体調査に関わっているが紐づけする事例は初めて。見えてきたときそれをどう考えるかが大事。

子どもの貧困は家庭で起こっていることだが、親がこうなっているから、というところに集約されてしまっては、結果的に子どもの支援に届かない。そういった保護者にどのような支援が考えられるかが大事。

委 員 長：調査結果を見るにあたって、留意点などあるか

アドバイザー：子どもの状況や家庭の今の状況を浮き彫りにする貴重な調査。保護者にできるだけ回答してもらい回収率をあげるのが大きなポイント。支援を必要とする家族ほど回答をスムーズに出してもらうのが難しいということも考えられる。

＜５分休憩＞

委　　員：根本的な確認だが、今回の調査は経済面に特化しているのか。精神的な面などは関係ないのか。

事 務 局：経済の面だけではなく、子どもや保護者が日ごろどんな気持ちで生活しているかなど精神的部分を問う設問もある。経済面に特化しているわけではない。

委　　員：生活困難の分類の「子どもの体験や所有物の欠如」の項目で、経済的な理由でと記載がある。これはどういうことか

事 務 局：生活状況の把握時に、経済的な理由ということだけでなく、方針でしないという選択肢もある。しかし、生活困難度の判定を行うときには経済的な理由でそれがない・行っていないという回答を使うということである。

委　　員：村上市では、地域と学校、親たちが子どもたちと一緒になって地域行事などに参加し、体験する機会が様々ある。精神的な発育に寄与しているのでそれも入れてほしいと要望２０に入れた。
地域こども会、スポーツ少年団など、地域と一緒にやっていることも大事だと思う。

事 務 局：今回のアンケートにおいて、委員の意見を反映させるとすれば、それらの経験の有無の設問が必要かどうかの判断となる。それをカウントするとまた別の結果になるのではないか。

委 員 長：村上市の事情というものがあるので、このアンケート調査の結果を見た上で、村上市にあるものを我々の目で地域の事情として加えていくのも必要かと思う。

委　　員：子どもと大人の回答をナンバリングでリンクするとの説明だった。経済面以外の質問もあるとのことだった。経済面以外の精神的な面についても分析することはあるか。

事 務 局：生活困難度別はほぼすべての設問でクロス集計。それ以外のクロス集計は必要に応じて可能。事務局で協議して決めていきたい。

委　　員：精神的な面での困窮度、幸福度との設問クロスもやってほしい。

委 員 長：精神的部分の要因のクロス集計をやってみてはどうか

事 務 局：経済的な面のクロス集計だけではなく、様々な課題が子どもに及ぼす影響など、精神的な面に着目してのクロス集計はできるだけやっていきたい。

委　　員：保護者の回答を多くするにはどうすればよいか。小1保護者票で所要30分とか書いてあるが、とても忙しい。例えば学校の協力や締め切りを伸ばすなど、なにか考えているか？

事 務 局：校長会等を通して、アンケート調査の協力をお願いしている。締め切りについては、郵送は2週間で締め切りを設けたが、学校では4週間と長く設けている。今後も学校と相談しながら進めたいと考えている。。

委 員 長：仙田委員はどうか？学校の回答率を上げることについて、考えなければいけないことがあれは教えてほしい。

委　　員：保護者へのメール配信などを通じてお願いすることは学校でできることだと思う。

委　　員：保護者の立場からすると、コロナの関係で「できない」という回答が増えるのではないか。これは家庭の方針ではなく経済的理由でもない。アンケート結果に影響あるのではないか。

事 務 局：体験等の設問で「過去１年間に」というしばりをなくしている。コロナについては「その他の理由で」に〇がつくと思われる。

委 員 長：事務局では、コロナの影響を極力排除ないし考慮して分析をお願いしたい。

委　　員：うちは来年小学生だが、正直、今これが来たらやる余裕がない。質問はもうちょっと絞れないのだろうか。あまり調査期間が長くても時間があると思って答えなかったりする

のでは？

委 員 長：何か知恵はあるか？　アドバイザーはどうか。

アドバイザー：子ども・子育てのアンケートで村上市の回収率は他の自治体例と比べて非常に高かった。そういう意味では村上市の方は協力的ではないか。かつ学校経由での依頼というところも保護者の意識が違うと思う。

ただし、どうしてもアンケートに取り組むのは家事等の後回しになるので、締め切りなど融通できればと思う。しっかり趣旨を発信していけばよい。学校でこういう調査をやるから回答してね、回答すると行政も受け止めてなにかやろうとするんだよ、と地域からの言葉添えがあればと思う。

委 員 長：事務局として何か工夫は？

事 務 局：例えば先ほどお話のあった学校からのメール、あるいは学校経由での念押しもあるだろうが、方策を検討していきたい。

アドバイザー：保護者に調査目的をどのようにメッセージとして届けるかが大事。調査票冒頭に書いてはあるが、何か１枚のペラでも、このように施策につなげようとしているんだとか、保護者に伝わるメッセージを追加してはどうか。大事なメッセージを添えて出してもらえるとよいと思う。

委 員 長：簡単にメッセージが伝わるようなものをぜひ作ってもらいたい。回収が上がる工夫が大事だと思う。

委　　員：コロナ禍以後に貧困になったという人もあると思う。その影響にも気をつけねば。

委　　員：アンケートが出てこない家庭の問題があると思う。いろんな方法で回収率が上がって意見が反映されてほしい。経済的面もそうだし、健康、虐待も増えているのでそこも拾えるとよいと思う。

委 員 長：アンケートに協力してくれる層はよいとして。それ以外のところへの配慮ということであろう。

事 務 局：さきほどご助言あった調査目的を保護者に伝える工夫を考えたい。また、しっかり分析できるようにすること、問い合わせへの対応準備など検討させていただく。

委 員 長：他には？

委　　員：回収率を上げる話。例えば保護者が外国人のケースもある。私のところでは、研修のとき資料に全部ふりがなをつけた。小学校５年の保護者調査票を見ても、普通に高校を出ていてもここでの漢字がわからないという保護者もいるだろう。みな漢字が読めるわけでもないし、母親が外国人の場合など、ふりがなつきが必要ならそれもご用意ありますよ、と伝える方策などどうか。

事 務 局：検討したい。

委 員 長：前向きに検討願いたい。貴重な意見をいろいろいただいた。他にあるか。

委　　員：子どもと親のアンケート票には「生活に関する実態調査」とある。関係団体等の調査には「貧困」という言葉が入っている、貧困対策計画というのを何か別のさわやかなネーミングを考えてほしい。他市町村ではそういうネーミングを使うところもある。

事 務 局：計画名は各市町村でいろいろなネーミングのものがある。計画名については改めてご相談させていただくが、福祉・学校関係者のアンケートは、今回はこのままでいきたい。

（２）第２期村上市子ども・子育て支援事業計画　令和２年度実績について

資料№.４により事務局から説明

委 員 長：この実績についての評価検証も当会議の役目である。何かあるか。

委　　員：達成状況について。ｐ９からの一覧で。自分はファミリー・サポート・センターに関わっているが、ファミリー・サポート・センターの評価がＡとなっている。しかし保護者が使いたいところにうまくマッチングができていない状況。依頼しても対応者がいない、という現状を見聞きする。ここでの評価Ａが、その実感と合わない。

事 務 局：具体的な事例をお聞かせいただきたい

委　　員：シングルファーザーが出勤前に、登校前の子どもの世話をし、学校へ行くのを見届けてからの出勤では遅刻してしまう。職場の理解もないので、朝の時間のサポートをしてほしいとの依頼。

事 務 局：依頼する親と提供する会員をそれぞれ登録している。提供会員にこういうニーズがあると説明をするが、特に早朝の時間は引き受けてくれる人がおらず対応できなかったことはある。評価Ａとなっているが、解決しなければならない課題はあると思う。ご意見について、今後の参考にさせていただく。

委 員 長：行政では気づきにくいところである。事務局は今回の評価に対して委員が見直しを提言すれば応じていくということでよいか。

事 務 局：まずは意見をいただいて、各課で検討していくこととしたい。

委 員 長：改めて令和２年度実績について何かあるか？

委　　員：ｐ１３、キャリア・スタート・ウィーク事業について、農業・林業の職業体験も生徒の希望があればできるのか。森林組合や農業法人の取り組みも進んでいるので、受け入れてくれそうだ。農業委員会と連携ではなく直接働きかけた方が受け入れが早いと思う。

事 務 局：昨年度や今年度始めもコロナで思うように動けないところもあった。次年度以降の取り組みの参考とさせていただきたい。

委　　員：ｐ５（６）、子育て短期支援事業は、一時保護ではなく、こちらからお願いしてやって

もらうものか。どのような内容の取り組みなのか知りたい。

事 務 局：計画実績がないのだが、養育負担が大きくなった保護者や一時的に預けたいときに、日中だけでなく泊りもあり、短期間子どもを預かる事業。預け先は児童養護施設などで対応するもの。最近では、里親にも委託できる制度となっている。需要はあってもまだ市で準備はできていない。今後利用できるように検討を進めていきたい。

委　　員：使い方にもよるが、がんばってがんばってドロップアウトになるよりは、こういうものを使えるとよいと思う。

委　　員：初めて会議に出席したが、村上市の支援事業がこんなにあるということを知らない親の方が多いのではないかというのが実感だ。

委 員 長：事業が知られていないということは、大きな問題だと思うが、市民の立場からどのような方向の支援であってほしいと思うか。

委　　員：必要としている人に届くのが一番だと思う。どんな支援を望んでいるかを先ほどのアンケートなども使って把握することが大事だと感じた。

委 員 長：市の支援が知られていないことについて、事務局ではどう考えているか。

事 務 局：子ども・子育て支援事業計画については、ホームページでも公表しており、市報等でもお知らせはしている。市民の皆さんに事業を知っていただく機会を、この会議を通じてどのような対応が考えられるかも協議していきたい。

委 員 長：知られていて、いろんな事業をしているという方向にしたいと思う。

委　　員：前の計画よりもわかりやすくなっているなと思ったところである。今回もらった計画は、字は小さいがこれなら見る気になる。支援が必要なところに支援がいくような計画になるとよいと思う。

委 員 長：見やすい、市民に届きやすい工夫もしてほしい。

委　　員：全体に見て、非常にきめ細かい調査や施策と思う。せっかくこれだけの調査なり施策をやっているのだから、調査票に簡潔な、〇〇のための調査といった受け入れやすい文言があるといいと思う。何とかその辺りを柔らかい表現で、わかりやすい情報発信を考えてほしい。施策についても「困ったらここへ連絡」なども含めてわかりやすく情報発信してほしい。Ａ４用紙１枚で全戸配布される案内のようなものをお願いしたい。

委 員 長：アンケートも、ドンとくると抵抗あっても、何かわかりやすく伝えるものが１枚あるとよいとの意見もあった。ぜひお願いする。

委　　員：ｐ１４、２－（２）－４、小学校就学時検診時家庭教育支援講座ということで、今年度から家庭教育支援チームで講師を５校担当した。市民の皆様に家庭教育支援チームが村上にあることを知っていただく機会があったのはよかったと思うが、今までのお願いしていたところから家庭教育支援チームに依頼することになったのはどんな理由か。市の

意図するところや希望などあれば教えてほしい。

事 務 局：その経緯は十分把握できていないので、後日確認してお伝えしたい。

委　　員：ｐ２４、５－（３）－２、学童保育施設の整備。策定時の令和６年の目標では、統合新築や改築の検討となっていたが、令和２年実績では空き教室や空き施設の活用の検討となっている。今後、新設ではなく空き教室や空き施設の活用という方向で検討していくということか。

事 務 局：保育園等施設整備計画審議会を今年度開催しており、その中で保育園・学童・支援センターの整備の方向性やあり方について検討している。その中で空き施設、空き教室の活用という方向性での整備検討を協議しているところである。

委　　員：今、空き教室がたくさんあるのでその活用はよいと思うので、その方向でお願いする。

委　　員：量の見込みの時、会議に参加した。驚いているのは、神林地区の学童保育所が、提供量４５人に対して、実績７４人利用している。１か所では足りないのではないか。廃校となった小学校の利活用は来年の４月からになっているが、そこに学童保育を設ける予定はあるか。

事 務 局：保育園等施設整備計画審議会で議論をしている最中である。関連地区の学童についても、空き教室や空き施設の活用について検討していこうとしているところ。具体的な場所などの個別計画については、計画策定後に検討していくことになると思う。

委　　員：指定管理者を募るには、そろそろ動きださないといけないと思うが、行政で直轄なのか？

事 務 局：神林地区の学童保育は指定管理でやっている。神納東小学校の跡地の利用についてははっきり決まっていないので、それも併せて検討していく。

委 員 長：コロナの関係もあり評価が難しい時期だが、他にご意見はあるか。ご意見がなければ、これまでの会議の流れからアドバイザーからご助言いただきたい。

アドバイザー：放課後の子どもの暮らし方について、ｐ１９　３－（１）－１、放課後児童健全育成事業、支援員のなり手不足とあり評価が「Ｃ」となっている。もう一つ、ｐ９　１－（３）－１、放課後子ども教室推進事業、成り立ちは違うが、子どもたちが放課後過ごす場ということであるが、支援事業計画の中にも学童と子ども教室が一体化していく方針という記載があったかと思う。その辺の進捗状況や今後の見通しはどうか？

事 務 局：放課後児童健全育成事業、村上市では学童保育所になるが、時間が放課後から６時半までとなり中途半端ともいえる。対応したいが条件が合わないとか、やりたいが勤務が難しいとか、学校が休みの日や土曜日などに支援員が集まらないというところが実態である。子ども教室と学童との連携は、一部の学校では進んでいるところはあるが、現時点では両事業を連携して行うというところに至っていないのが現状である。

アドバイザー：子ども・子育て支援事業は、国の必須事業と自治体村上市独自とあり、両方盛り込まれているので多くの事業が生まれてきている状況だと思う。施策評価ＡＢＣというのは本当なのかと思われるかもしれないが、行政は計画した施策を実際にやったか、否かの評価になっている。事業を使ってどうだったかは評価ＡＢＣでは判断がしにくいのが現状である。計画策定においては、事業をやったか、やらないかもきちんと見ていかなければならない観点であるので、そういう観点でＡＢＣ評価を見ていただければと思う。こういう会議の場で、実際に起きている事柄を皆さんと共有しながら、やっている事業が、子育て家庭にどのような支えになっているのか、変化をもたらしているのかなどを共有したり、変化や課題などを確認できればよいと思う。

その中で、ショートステイは、子どもの貧困ともからむ。経済的に厳しい状況にある方たちが、職業として選択するところで深夜の仕事に就かざるを得ない人たちやあるいは生活がギリギリになり、少し休めればまた頑張れるという場合などに有効なもの。

そういう方たちへのアプローチが大事な時代になってきているので、受け入れ人材の確保などの課題があるが、計画の中で方向性を持って、取り組んでいただければと思う。

放課後児童健全育成事業と、放課後こども教室は一体的にというのは国の方針であり、学校の空き施設の活用も国の方向性。それらを踏まえて村上市としての対応の方向性を検討していただきたい。

委 員 長：行政の評価については厳しい意見もあったが、村上市民として、子ども・子育て事業がいいものになるように意見を寄せていきたいと思う。

９　その他

事 務 局：今回審議いただいた調査内容については、本日のご意見、回収率向上の方策など検討するが、基本的には本日の調査票をもって１１月１９日より開始したい。

※以下、事務局による進行

10　次回の会議日程

事 務 局：第３回会議を令和４年３月としたい。詳細は改めてご案内する。

11　閉会のあいさつ　冨樫副委員長

午後４時４０分　終了